

平成 21 年度第 1 回特別講演概要

演題

「激動する世界の食料事情の中で日本の食と農を考える」

講師

元農林水産省農林水産技術会議事務局長

総合科学技術会議基本政策専門調査会委員 貝沼 圭二 氏

講師経歴

昭和 34 年 3 月	東北大学農学部農芸化学科卒業
34 年 4 月	農林省食糧研究所入所
49 年 4 月	食品総合研究所食品理化学部炭水化物研究室長
52 年 10 月～53 年 9 月	米国アイオワ州立大学客員准教授
58 年 4 月	食品総合研究所食品工学部長
63 年 10 月	農林水産技術会議事務局バイオテクノロジー課長
平成 3 年 8 月	農林水産技術会議事務局長
5 年 10 月～ 8 年 8 月	国際農林水産業研究センター所長
8 年 10 月～14 年 9 月	生物系特定産業技術研究推進機構理事
16 年 4 月～20 年 3 月	国立大学法人帯広畜産大学監事
16 年 4 月～20 年 4 月	農林水産省農林水産技術会議委員
16 年 6 月～18 年 5 月	財団法人農業技術協会会長
16 年 12 月～現 在	総合科学技術会議基本政策専門調査会委員
20 年 4 月～現 在	国立大学法人九州大学大学院農学研究院特別顧問

この間、日本応用糖質科学会会長、サゴヤシ学会会長、IFT Japan Section 会長、APEC 農業技術協力部会議議長、OECD 新食品・飼料安全性タスクフォース副議長、国際農業研究会議グループ科学理事会理事などを歴任。

講演内容の紹介

日本は食料自給率が 39%と先進国の中で最低のレベルにある。最近、この数値は多くの場所で語られるようになってきた。一方、60%以上の食料を輸入している国として、異常に高い食品廃棄量がある。国民一人一人が意識して、減少させなければならない廃棄量である。この量は世界の途上国への食料援助量の 3 倍に当たる 1,900 万トンにも及んでいる。

日本の食料事情は、世界の食料生産に大きく依存している。近年の世界の穀物生産および流通、利用の現状を詳しく見ると、2008 年何故穀物価格は高騰し、日本の家計にまで影響を与えたのか？ということがわかる。そして日本はいつまで国際市場で食料を自由に購入できるのかという懸念が生まれる。

講師が APEC 農業技術部会議議長、OECD 新規食品・飼料安全性タスクフォース副議長、世界最大の農業研究組織である国際農業研究協議グループ (CGIAR) 科学理事会の 7 人委員会メンバーとして経験された世界の農業、研究方針および近年急激に栽培面積が増加している世界の遺伝子組換え作物などについてご講演いただいた。